

平成19年度 日本家政学会

色彩・意匠学部会報 No. 4

発行日 平成20年3月31日
発行人 日本家政学会色彩・意匠学部会編集発行
事務局 〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地
東京家政学院短期大学被服構成学立休研究室(井澤)
TEL: 03-3262-2692 FAX: 03-3262-2174

《平成19年度総会報告》

平成19年8月23日(木)、ウィルあいちにおいて「平成19年度総会」を開催、以下の議事について報告、検討を行い、承認された。

議事

平成18年度事業報告

1. 総会

平成18年8月24日(木) 文化女子大学

2. 役員会

- ・平成18年8月24日(木) 文化女子大学
- ・平成19年3月3日(土) 東京家政学院短期大学

3. 連絡懇談会

平成18年5月28日(日) 秋田大学(日本家政学会第58回大会会場)

4. 日本家政学会第58回大会において被服構成学部会企画のシンポジウムに部会として協力

5. 平成18年度色彩・意匠学部会、被服心理部会合同夏季セミナー

平成18年8月24日(木)～25日(金) 文化女子大学
<プログラム>

●8月24日(木) 会場：文化女子大学

- ・講演1)「トレンドカラー最前線」(A館051)
講師：文化女子大学教授、国際流行色委員会
議長 大関徹氏
- ・講演2)「エルメス、ルイ・ヴィトン、ポロ・ラルフローレンに見る経典的価値創造」(A館051)
講師：早稲田大学ビジネススクール経営専門職
大学院教授 長沢伸也氏
- ・ファッションリソースセンター見学：テキスタイル資料室・コスチューム資料室・映像資料室
- ・情報交換会(懇親会)(大学食堂)

●8月25日(金) 会場：ナショナルセンター東京

- ・講演3)「光と睡眠の生体内リズム」
講師：松下電工(株)照明R&Dセンターオブ
ティックスGグループ長 阪口敏彦氏
 - ・講演4)「スロービューティーの必要性ーメトロセクシャルを例としてー」
講師：駒沢女子大学助教授 資生堂客員研究員
石田かおり氏
 - ・ナショナルセンター東京施設概要の説明
 - ・光源と色温度、バーチャルルームの見学
 - ・色彩・意匠学部会共同研究の打ち合わせ、ナショナルセンター美術館、暮らしの夢などセンター内施設自由見学
- ##### 6. 情報交換会
- 平成18年8月24日(木) 文化女子大学
- ##### 7. 共同研究打ち合わせ
- 平成18年8月24日(木) 文化女子大学
平成18年8月25日(金) 汐留
- ##### 8. 講習会
- 平成19年3月3日(土) 東京家政学院短期大学
- ##### 9. 企画委員会(平成19年度夏季セミナー関連)
- ##### 10. 平成18年度役員構成
- 部会長：芦澤昌子 副部会長：橘 喬子、橋本令子
監事：斎藤祥子、渡辺芳道
常任委員：
<庶務>石原久代、野沢久美子、内藤章江
<会計>井澤尚子、成田巳代子、田岡洋子
<会報>武井玲子、伊藤陽子、花田美和子
<セミナー>盛田真千子、吉田千恵子、佐々木由美子
<共同研究>盛田真千子、橘 喬子
<顧問>吉岡徹、伊藤紀之、加藤雪枝

11. 平成18年度会計報告

平成 18.4.1—平成 19.3.31

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	20,021	通信費、事務費 他管理費関係	201,205
平成18年度 部会費	36,000	講習会開催費、 雑費他事業費	106,279
本部より補 助金	22,950	関係	
シンポ・講演 参加費	80,000	次年度繰越金	55,487
セミナー参 加費	204,000		
合計	362,971	合計	362,971

以上の報告通り相違ありません。

監査 斎藤 祥子 印(平成19年4月6日)

渡邊 芳道 印(平成19年4月5日)

平成19年度事業計画

1. 総会

平成19年8月23日(木) ウィルあいち

2. 役員会

- ・平成19年8月23日(木) ウィルあいち
- ・平成20年3月8日(土) 東京家政学院短期大学

3. 連絡懇談会

平成19年5月13日(日) 長良川国際会議場(日本家政学会第59回大会会場)

4. 平成19年度夏季セミナー

平成19年8月23日(木)～24日(金) ウィルあいち・七宝焼アートヴィレッジ

6. 情報交換会

平成19年8月23日(木) ウィルあいち

7. 共同研究打ち合わせ

平成19年8月23日(木) ウィルあいち

8. 講習会

平成20年3月8日(土)

9. 平成19年度役員構成

部会長 : 橋 喬子

副部会長 : 橋本令子、成田巳代子

常任委員 :

<庶務>石原久代、畑久美子、内藤章江

<会計>井澤尚子、佐々木由美子

<会報>武井玲子、伊藤陽子、花田美和子

<セミナー>橋本令子、石原久代、内藤章江

<共同研究>代表 : 武井玲子、橋本令子

<顧問>吉岡徹、伊藤紀之、加藤雪枝、渡邊芳道

<監事>斎藤祥子、芦澤昌子

<30周年準備委員(実践集)>芦澤昌子、斎藤祥子、盛田真千子、田岡洋子、長塚こすえ、井澤尚子

10. 平成19年度予算案

平成 19.4.1—平成 20.3.31

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	55,487	通信費	18,000
平成19年度 部会費	40,000	事務費	5,000
		印刷費	2,000
		会議費	20,000
		雑費	1,000
		次年度繰越金	49,487
合計	95,487	合計	95,487

平成19年度総会議事録

日時 : 平成19年8月23日(木) 16:15～16:45

場所 : ウィルあいち、司会 : 成田副部会長

I. 開会挨拶

橋 喬子部会長より開会の挨拶がなされた。

II. 議題

1. 平成18年度事業報告(資料1)

石原委員より、平成18年度事業報告がなされ資料の通り、承認された。

2. 平成18年度色彩・意匠学部会、被服心理学部会合同夏季セミナー報告(資料なし)

吉田実行委員より、平成18年8月24日(木)～25日(金)に行われた色彩・意匠学部会、被服心理学部会合同夏季セミナー(於:文化女子大、ナショナルセンター東京)について報告がなされた。

3. 平成18年度会計(資料2)

田岡委員より、平成18年度会計報告がなされた。

4. 平成18年度会計監査報告(資料2)

斎藤委員より、平成18年度会計監査報告が資料の通りなされ、承認された。

5. 平成19年度事業計画案(資料1)

内藤委員より、平成19年度事業計画が提案され、承認された。

6. 平成19年度予算案(資料3)

佐々木委員より、平成19年度予算案が提案され、承認された。なお、資料3に示す予算案には夏季セミナーの収支が加わるため、決算は予算案とやや異なることが予想されるとの補足説明がなされた。

7. パソコン講習会報告(資料4)

井澤委員より、パソコン講習会報告および会計報告がなされたが、収支決算における差引残高がマイナス(-3,529円)となったため、部会会計より支出したいとの提案がなされ、了承された。

8. 平成18年度色彩・意匠学部会会報について(資料なし)

武井委員より、平成18年度色彩・意匠学部会会報を既に発行・配布済みであるとの報告がなされた。

9. 平成19年度色彩・意匠学部役員について

(資料5)

橘部会長より、平成19年度色彩・意匠学部会の役員について提案がなされ、承認された。なお、顧問の渡辺委員は平成19年度までの任期とし、30周年準備委員(実践集)に井澤委員が加わることとなった。

10. 平成19年度夏季セミナーについて

橘本実行委員長より、平成19年度夏季セミナーが平成19年8月23日(木)、24日(金)にウィルあいちおよび七宝焼きアートヴィレッジにて開催されるとの説明がなされた。なお、家政学会事務局に家政学会誌への夏季セミナーの案内掲載を依頼したが、掲載されなかった件について、家政学会副会長より謝罪があったと報告がなされた。

11. 共同研究について(資料6、7)

武井委員より、ユニバーサルデザイン調査研究(資料6)について説明がなされた。現在、メンバーは12名であり、テーマは1)公的設備の表示の視認性「公衆トイレのユニバーサルデザイン」、2)ユニバーサルファッション「衣服の開閉、留め具のユニバーサルデザイン」の2つである。引き続き、橘本委員より、新たな研究テーマとして、「色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究」(資料7)が提案され、研究への参加が呼びかけられた。

12. 30周年実践集準備委員会発足について(資料8)

芦澤委員より、30周年実践集について説明がなされた。実践集には、過去に部会として家政学会で発表した要旨なども取り込むことになった。また、過去の役員名一覧については、不明部分があるため、役員で補完することとなった。なお、実践集の発刊費は、部会費から捻出することで合意が得られた。

13. その他

成田委員より、平成20年度夏季セミナーは滋賀県大津市で開催したいとの提案がなされ、了承された。日程は他部会や他学会との兼ね合いもあり、未定である。また、平成20年3月8日(土)に開催予定の講習会については、関東(東京)が良いとの意見が出され、今後会場を検討することとなった。

Ⅲ. 閉会挨拶

橘部会長より閉会の挨拶がなされた。

《夏季セミナー報告》

平成19年度(社)日本家政学会色彩・意匠学部会第29回夏季セミナーが平成19年8月23日(木)～24日(金)、ウィルあいちで開催された。

23日はウェルあいちで役員会、総会、神作博氏・中内茂樹氏の講演、共同研究課題の説明、研究方法などの討論、情報交換会が盛大に開かれた。

24日は、七宝町七宝焼きアートヴィレッジで、七宝焼き体験、七宝焼きについての小林弘昌氏の講演をお聞きし、七宝焼き展示室を見学した。帰りには、七宝焼き体験で作成した作品を笑顔で受け取り、貴重な経験に感謝した。

<プログラム内容>

●8月23日(木) 会場：ウィルあいち

〒461-0016 名古屋市東区上堅杉町1

11:00～11:45 色彩・意匠学部役員会

12:30～13:00 受付

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～14:10

講演1)：「応用色彩と諸様相と応用行動色彩学—主として色彩の視認性・誘目性・可読性を中心として」

講師：中京大学 神作博氏

14:10～14:30 コーヒータイム

14:30～16:00

講演2)：「カラーユニバーサルデザイン：コンセプトと実践」

講師：豊橋技術科学大学 中内茂樹氏

16:15～16:45 日本家政学会色彩・意匠学部会総会

18:00～20:00 情報交換会(懇親会)

●8月24日(金) 会場：七宝町七宝焼きアートヴィレッジ

〒497-0000 愛知県海部郡七宝町

10:00～11:30 七宝焼き体験(ブローチ製作)

11:30～12:00

尾張七宝製作工程見学(動態展示ゾーン)

12:00～13:15 昼食(和食処南島)

13:15～14:15

講演3)：「七宝焼きについて」

講師：七宝町七宝焼きアートヴィレッジ

小林弘昌氏

14:15～14:55 七宝焼き展示室見学・体験作品引渡し

15:30 名古屋駅解散

<講演内容要約>

講演1)

「応用色彩と諸様相と応用行動色彩学—主として色彩の視認性・誘目性・可読性を中心として」

講師：中京大学 神作博氏

最初に行動色彩学というタイトルについて、色彩は実際に行動して視覚シミュレートをしないとわからない。そしてこの結果は人間の安全面、環境面に配慮する必要があると考え、これまで研究を行ってきたと説明があり、多数の研究成果の中から、視知覚機能特性である視認性、誘目性、可読性について講演いただいた。

視認性は一刻も早く発見しようと、人が予想される方向に注意を向けていることである。例えば人を救助する際、発見を容易にするために使用する海染剤の色、浮船の色、交通事故を防ぐため歩行者の衣服に蛍光色の糸を織り込む、また電車に色を付け、もの言わぬものの視認性を高めるなど工夫する。誘目性は彩色された対象が視野内に複数存在するときの注意の引かれやすさ、目立ちやすさのことである。自然色(草、海、空、雪、土)を背景とした場合の標識の色、天候の違いによる航空機離・着陸時の飛行場標識の目立ちやすさがあるが、これには彩度の高低が最も影響する。また可読性は文字、数字の読みやすさを言い、図が単純な場合は、図を白、地は明度の低い収縮色がよいが、図が複雑の場合は光滲現象が生ずるため逆にする。

いずれも船や飛行機などを使った大がかりな研究であり、最初に説明された行動色彩学の意味を実感した。そして色の現実を確かに応用することが色彩の役割であると再認識した講演であった。

講演2)

「カラーユニバーサルデザイン:コンセプトと実践」

講師:豊橋技術科学大学 中内茂樹氏

2004年、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構が設立された。この目的は、社会の色彩環境を多様な色覚を持つ人たち(ここでは色弱者を主体に説明)に対し改善してゆくことをめざしている。色弱者は外観ではわからない、本人も言い出しにくい背景がある。そして、一般色覚者はその不自由さを理解しづらいため、問題そのものが知られていない現状にある。

色弱者には赤色が見えない第一色弱者、緑色が見えない第二色弱者、青色が見えない第三色弱者がある。この三つをあわせて、日本での色弱者は男性の約5%、女性の0.2%であり、男性においては20人に1人の割合である。例えば、緑色や赤色のチョーク、教科書に使われる色、交通路線図など、色弱者には見分けにくい色や同じに見える色が無数にある。そこで色覚正常者が色の見分けにくさを体験できる色弱模擬フィルタを産学連携で開発したと解説があった。

その後、いくつかのグループに分かれ参加者がフィルタをはめこんだメガネ(バリエーション)をかけ実際に色資料をみた。今まで誰もが気に止めていなかった色弱者の色の見え方を体験して、驚きの声があがった。そして参加者全員がカラーユニバーサルデザインの重要性を知るよい機会となった。

(夏季セミナー幹事:橋本令子)

講演3)

「七宝焼きについて」

講師:七宝町七宝焼アートヴィレッジ 小林弘昌氏

七宝焼は、もともと遠く紀元前古代エジプトにおいてその同類が見受けられ、その多くは、インド・中国・朝

鮮を経て我国に伝来したものとされている。七宝とは、仏典にある七つの宝物「金・銀・瑠璃・しゃこ・瑪瑙・真珠・まいえ」のことで七宝焼の美しさが七種の貴品に似て絢爛で高貴である所からこの名がつけられた。また、愛知県海部郡七宝町という地名は、この地で尾張七宝焼の職人が多かったことから七宝村と名づけられ、今日の七宝町となっている。尾張七宝の創始者は、梶常吉(1803~1883)といわれている。常吉は、オランダ船が持ってきた一枚の七宝皿を得て研究したが、容易に会得できなかったため、破砕分析し銅胎植線施釉の構成を知り、それに近い精巧な七宝焼の制作に成功した。その技法が現在の七宝町遠島の林庄五郎に受け継がれ、さらに塚本貝助に伝えられ、この地に尾張七宝の基盤がつけられた。その製作工程は、「素地つくり→下絵つけ→植線→施釉→焼成→研磨→覆輪付け」と非常に細かい作業の連続で、各工程については、本セミナーの会場の七宝町七宝焼アートヴィレッジの「動態展示ゾーン」にて実演・説明され、興味深いものであった。

(夏季セミナー幹事:石原久代)



講演2)



七宝焼体験

《色彩・意匠学部会共同研究について》

◆ クールピズに関するグループ研究

平成18年8~9月に、男女有職者の服装意識及び省エネルギーの視点から夏における快適なビジネスウェアの着装方法についての調査を実施しました。また、平成19年度5月開催の日本家政学会第59回大会で口頭発表をしました。発表者は平成18年度、平成19年度とも内藤章江、井澤尚子先生に担当していただきました。2年間にわたり、グループ研究を行ってまいりましたが、平成19年度をもって一区切りといたします。なお2回にわたって行ってきた口頭発表の内容については、それを基に報文にするよう進めるとともに、部会30周年記念誌に纏め掲載予定です。

(研究グループ代表:盛田真千子)

◆ 明るさの言葉に関する研究

色の見えに対して明るさは影響が大きい。その明るさを表現する言葉の調査を平成17年8月から行い、2報にわけ平成18年5月に秋田大で開催された年次大会において、下記のように口頭発表を行った

1) 明るさのことばの活用

発表者：佐々木由美子

共同研究者名：成田巳代子、田岡洋子、近藤信子、
吉田千恵子、花田美和子、芦澤昌子

2) 情景画像から見た明るさのイメージ

発表者：石原久代

共同研究者：橋本令子、斎藤祥子、井澤尚子、
小吹史子、花田美和子、芦澤昌子

続報として上記調査について、実験を行い確認するため平成18年1月から汐留の松下電工で実験を行った。本実験は岐阜国際会議場で行われた59回大会（平成19年5月）でポスター発表された。

3) “明るさの言葉”のイメージと照度

発表者：花田美和子

共同研究者：井澤尚子、佐々木由美子、吉田千恵子、
小吹史子、盛田真千子、芦澤昌子、
石原久代、橋本令子、斎藤祥子

要旨：明るさを表す日本語は数多く存在するが、現代においては、照明の発達や深夜営業の増加等により微妙な明るさの変化を捉える機会が減っており、それらを表す言葉の使用も減少してきている。そこでこれらの言葉に相当する照度を測定することにより、現代人が言葉からイメージする明るさを数値化する試みを行なった。

実験は日の出・日の入の時間帯に屋外で行われ、明るさを体感しながら、黎明、夜明け等の“明るさの言葉”から被験者がイメージする明るさに達した時点の照度を測定した。同様の実験を汐留のナショナルセンターの照明ラボで行ない、自然光と人工光での明るさのイメージの差異について報告した。

(研究グループ代表：芦澤昌子)

◆ ユニバーサルデザインに関する研究

平成17年度夏季セミナーにて「ユニバーサルデザイン」をテーマに古川雲雪氏による講演ならびにエイジレスセンターの見学を実施した。それらの知識・情報をもとに研究の発端として、平成18年9月～10月にかけてユニバーサルデザインに関する生活者の意識調査を実施し、ユニバーサルデザインに対する認識度や生活者が求めているものなど、その分析結果を日本家政学会第59回大会にて次の2報を発表した。

1) ユニバーサルデザインに関する研究(1)

— 生活者意識の実態 —

発表者：成田巳代子

共同研究者：井澤尚子、伊藤陽子、斎藤祥子
田岡洋子、畑久美子

要旨：研究の方向性を考える基礎情報の取得を目的に、一般の消費者はどれだけユニバーサルデザイン(UD)を認知し理解しているか、代表的な既存UD製品に対する理解と活用がなされているか、更に日常生活で不便を感じていること、即ちUDの視点が必要とされるものや事

柄等を探るため、平成18年9月～10月、10代以上の男女1378名を対象に配票留置法でアンケートを実施し、単純集計とクロス集計を行った。結果、ユニバーサルデザインという言葉について言葉・意味とも知っている41.5%、言葉のみ17.6%、余り知らない23.2%、全く知らない17.1%。携帯電話等の数字の凸点を知っているのは16～24歳81%、65歳～36%。身体の不自由な人への配慮が生活全体にまだ十分ではないと思っている人の75%はUD情報提供が十分とはいえないと思っている。UDに対する知識や事例についての認識には年代において差がみられた。

2) ユニバーサルデザインに関する研究(2)

— 問題点からのアプローチ —

発表者：橋 喬子

共同研究者：芦澤昌子、蒲池香津代、武井玲子
長塚こずえ、花田美和子

要旨：生活者の意識や認識度をアンケート調査し、そこからその問題点を掘り起こし、問題解決に向け、色彩・意匠学の見地からユニバーサルデザイン開発への足がかりとすることを目的とした。

生活の中で不便と感じる事柄への意識に関する30の質問項目は、1) 公的設備、2) 家内操作、3) 文字表記、4) 衣服購買、5) 周囲配慮、の5つのグループに分かれた。自由記述では歩道などの段差の解消、駅のエレベーターやエスカレーターを設置、駅の案内表示や料金表示の明確化、公共施設のトイレの水道蛇口の取っ手の統一など公的設備に関する問題点や要望が多く見られた。また衣服のサイズや色彩・デザインに対する要望も見られたことから年齢やサイズ、体型、障害に関わりなく、誰もが楽しめるファッションへの取り組みも課題である。生活実態から様々な問題点を整理・分類し、快適な生活を送るためユニバーサルデザインの開発に向け、取り組むべき方向性を見出した。

(研究グループ代表：橋 喬子)

平成19年度は、18年度の調査において公的設備に対する問題点・課題が多く抽出されたことから、公共トイレを取り上げ、色彩・意匠学の専門性からユニバーサルデザイン研究に資することを目的として、一般生活者を対象として公共トイレの利用前後の行動に対するUD視点における意識と実態に関するアンケート調査を実施した。この結果を2報にまとめ、日本家政学会第60回大会において口頭発表を行う予定である。

1) ユニバーサルデザインに関する研究(3)

— 公共トイレに対する意識 —

発表者：畑 久美子

共同研究者：井澤尚子、佐々木由美子、長塚こずえ、
成田巳代子、花田美和子、吉田千恵子

2) ユニバーサルデザインに関する研究(4)

— 公共トイレの視認性、使用性 —

発表者：武井玲子

共同研究者：芦澤昌子、伊藤陽子、蒲池香津代、
斎藤祥子、田岡洋子、橘 喬子
(研究グループ代表：武井令子)

◆ 色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究

平成19年度、夏季セミナーにおいて講演された“色覚異常”の内容をふまえ、未だ着眼されていない衣服の色表示の改善方法を社会に向けて提案、発信するため、衣服におけるカラーユニバーサルデザインについて研究を進めることとした。

早速今年度は、衣服自体の表示方法、店舗での販売方法、消費者の意識など現状を把握するため、平成19年11月～12月に実施調査を行った。この結果は、日本家政学会第60回大会において発表を行うため準備中である。

1) 「色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究」

(1) アパレル商品の色表示の現状

発表者：橋本令子

共同研究者：内藤章江、石原久代、稲垣有美子、井澤尚子、田岡洋子、成田巳代子、芦澤昌子

2) 「色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究」

(2) 消費者と衣料販売員の意識

発表者：内藤章江

共同研究者：橋本令子、石原久代、稲垣有美子、井澤尚子、田岡洋子、成田巳代子、芦澤昌子

《お知らせ》

平成20年度色彩・意匠学部会夏季セミナー

平成20年度色彩・意匠学部会総会及び夏季セミナーを下記の通り、開催致します。部会員はじめ、部会員以外の方方のご参加も歓迎いたしますので、皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加下さいませ。

期日：平成20年8月25日(月)、26日(火)

会場：琵琶湖ホテル

申し込み・問い合わせ先：

〒520-0803 大津市竜が丘2-4-4 滋賀短期大学

TEL 077-524-3605

e-mail hifuku@sumire.ac.jp 成田 巳代子

色彩・意匠学部会規程

第1章 総則

第1条 この部会は色彩・意匠学部会と称する。

第2条 この会は、(社)日本家政学会の全国的な会員の交流をはかり、色彩・意匠の学術・研究の成果を高め、家政学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

第3条 この会はその目的を達成するために次の事業を行なう。

- 1) 研究会
- 2) 研究発表会・討論会
- 3) 講習会(セミナー)
- 4) 研修・見学会
- 5) 成果の印刷物配布
- 6) その他の必要とする事業

第4条 この事業の年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わりとす。

第3章 会員

第5条 この会は(社)日本家政学会の会員をもって構成する。

第4章 役員

第6条 この会の運営を円滑にするため次の役員をおく。

部会長	1名	(付1)
副部会長	2名	
監事	2名	
常任委員	若干名	

第7条 役員の職務は互選によって定め、総会の承認を得る。

第8条 役員の任期は2年とする。ただし再選をさまたげない。

第5章 会費

第9条 本会の会費は年額千円とする。

付則

この規程は昭和53年4月1日より施行する。

この規程は昭和58年8月26日より改定施行する。

この規程は平成元年8月22日より改定施行する。

この規程は平成15年8月28日より改定施行する。

申し合わせ事項

1. 役員の職務は庶務・会計・セミナー・企画の係を分担する。
2. 庶務・会計は会員の中から補佐を依頼することが出来る。
3. 事務局は会計責任者の勤務先住所とする。(付2)
4. 会計は会計責任者名で口座を開設する。

(付1)：部会長連絡先(平成19年4月1日から)

〒662-8555 兵庫県西宮市こしき岩町6-58

夙川学院短期大学 橘 喬子

TEL: 0798-73-3775 FAX: 0798-73-9136

e-mail: tatibana@shukugawa-c.ac.jp

(付2)：事務局連絡先

〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地

東京家政学院短期大学 井澤尚子

(部会費振込み先) 口座番号：0014-5-389316

口座名義：色彩・意匠学部会

＜編集後記＞ 会報を作成する3月ともなると、卒業式シーズン。謝恩会の案内状を持って挨拶にきた学生の入学時の姿を思い出し、4年間の成長のすばらしさにしばし感激。4月からの厳しい実社会、笑顔で元気に活躍することを願わずにはいられません。色彩・意匠学部会部会員の益々のご活躍をお祈りしております。(担当：武井、伊藤、花田)